

東京医科歯科大学 国際交流センター							
事業名	歯学分野の留学生に対する日本語教育と地域在留外国人への歯科医療サービスの向上を目指した連携						
実施期間	平成27年6月から平成28年2月						
場所	東京医科歯科大学						
参加者	外国人留学生	地域住民	学生	スタッフ	関係者	来場者	合計
	63	0	3	1	3	0	70名

<実施内容>

東京医科歯科大学 国際交流センターでは、平成27年度公益財団法人中島記念国際交流財団助成による留学生地域交流事業として、歯学分野の留学生に対する専門日本語教育コースの開講と歯科病院で必要となる会話をおさめた多言語の指差し会話集の作成を行いました。

両事業とも東京医科歯科大学内で実施し、留学生をはじめとして、のべ70人が参加しました。



No1 医歯学日本語コースの様子(健康推進歯学)



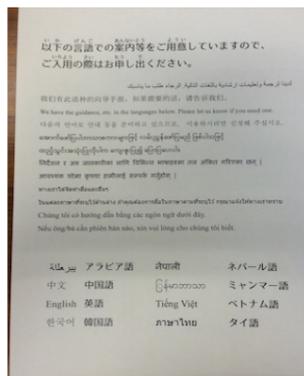
No2 医歯学日本語コースの様子(地域保健活動)



No3 作成教材一例



No4 多言語会話集



No5 多言語会話集(周知用ポスター)

歯学部大学院留学生で、日本語能力試験N3以上の日本語能力を持つ留学生を主な対象とした「医歯学日本語コース」では、医歯学で使用される日本語について理解を深めること、日本語能力試験N2以上の専門的な日本語能力を身につけることを目標に、9ヶ月間で計14回の授業を行いました。専門家からの助言や協力を得、歯学分野で学ぶ留学生を対象とした専門分野に関する講義を歯科医師や専門家に依頼するとともに、各講義の内容に基づく日本語教育用の教材を作成し、日本語の授業を行いました。具体的には、健康推進歯学や地域保健活動などに関する講義が行われ、講師のお話を聞くだけでなく、体験等を通し学ぶ機会も得られました。

多言語会話集は歯科病院で必要となる会話をおさめた会話集で、歯学部附属病院で使用されることを念頭に作成しました。そのため、附属病院や附属病院のある文京区内の実情を反映し、日本語の会話集を基に、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、タイ語、ミャンマー語、ネパール語、アラビア語版を作成しました。翻訳は上記コース履修者及び歯学部在籍する留学生に依頼しました。会話集は歯科医師と患者の会話がスムーズに行われるよう、全て指差しで会話できるよう設計しました。今後、必要な手続きを経て、附属病院内に設置する予定です。

本事業は、留学生に対しては、歯学分野と日本語教育とを結びつけることで、意味のある教育を効率的に提供することができ、結果として、留学生活の充実度の向上に繋がったのではないかと考えられます。また、地域在住の外国人にとっては、歯科医療サービスへのアクセスを容易で安心できるものへと変えることへと繋がるのではないかと考えています。そして、表面的な変化だけでなく、大学や病院における留学生と地域在住の外国人に対する意識の変化も今後影響を与えていくと期待しています。

<参加者からのコメント>

無記名/Anonymous

いろいろな医歯学の話を知ったり、議論をしたりして、大変いい勉強の機会だった。

無記名/Anonymous

今回、このような意味のある仕事をさせていただき、とても勉強になりました。どうもありがとうございます。